

国際文化学科

1 専門教育科目の構成

1. 国際文化学科の教育目的

本学科は、アジア・アフリカ・ヨーロッパ各地域の文化と社会を理解することを通して、現代の国際社会が直面しているさまざまな問題を考察し、それらに対応できる能力を開発することを教育目的としている。そのためには、各地域に根差した独特な民族文化に対するローカルな視点と、国際関係や地球環境といったグローバルな視点とを併せ持つ必要がある。

このようにして習得した知識を実践に移すための重要な「道具」が語学力である。語学力とは、日本語を含め、さまざまな言語でコミュニケーションを行うことによって相互理解を深め、話し合いを通して平和な国際社会を実現するために必要な能力である。

本学科では、以上のような教育目的を実現する学びの場を総合して「国際文化」と呼んでいる。それは、国境を越えて「国際化」する民族文化が良くも悪くもせめぎあい、新たな文化を創造するダイナミックな場であるといつてよい。

本学科は、そうしたダイナミズムを受け止め、活動に生かすことのできる国際感覚豊かな女性の育成をめざしている。

2. 国際文化学科の特徴

本学科では、多様な地域と言語について学べるだけでなく、実習・個別研修・留学など、学びの形態も多様である。教育の基本は、いずれも地域研究にある。その総仕上げは、アジア・アフリカあるいはヨーロッパの地域・国を対象として、卒業論文を書くことにある。「文化交流」系列でも地域研究との関連で卒業論文を書くことになる。

英語は必修であるが、能力別クラス編成をとるため、得意でないと思っている人でも無理なく受講できる。英語以外の多様な言語へチャレンジすることも可能であり、さらに、個別研修や留学を活用してそれらの言語をより深く学ぶこともできる。

中学校・高等学校の教育職員免許取得や、観光業界への就職をめざした時間割を組むことも、興味のある地域や言語を中心に時間割を組むこともできる。

いずれの場合も、本学科の学生に期待される自発性や独創性を身につけることで、卒業後、社会で活躍できる人材になれるだろう。

3. 教育課程の特色

専門基礎科目、専門基幹科目、言語とコミュニケーション科目、専門発展科目（観光科目、個別研修、実習科目）により構成されている。

専門基礎科目：1・2年次中心に開講され、世界の現状、歴史、思想について基礎的な学習を行う。

専門基幹科目：1年次の基礎演習、2・3年次の地域研究、3年次の演習科目、3・4年次の特論、4年次の卒業論文がある。基礎的学習を土台とし、地域研究、文化交流の専門分野の学びに入る。

学びの総仕上げとして、全学生が卒業論文を執筆する。

言語とコミュニケーション科目：

世界で広く使用されている英語でのコミュニケーション能力の修得を目標とする。その他異文化や社会を深く理解する助けとなる多様な言語を学習する。

専門発展科目：

【観光科目】3・4年次に観光英語、観光マネジメント、人文地理学Ⅰ・Ⅱが開講される。観光に主眼を置くこれらの科目において、1・2年次までに専門基礎・基幹科目で養った力を応用しながら学ぶ。

【個別研修】NGO活動への参加、短期留学、語学検定など自主的に学んだ成果を単位として認める。

【実習科目】現地でのフィールドワークが中心の「海外実習」、日本語が使えない環境で語学力を磨く「語学実習」、日本文化を見直し文化交流を実地に学ぶ「国内実習」がある。

2 履修方法

◆卒業要件単位

卒業するためには、以下の要件を満たし、合計124単位以上履修しなければならない。

1) 一般教育科目

一般教育科目は26単位以上履修すること。その科目の内訳は以下のとおり。

①必修科目（計26単位）

- 1年次：「キリスト教学」、「基礎演習」、「日本語演習」、「自然科学入門」、「運動スポーツ論」、「ドイツ語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」または「フランス語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」または「中国語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」または「イタリア語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」または「朝鮮語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」
- 2年次：「自然科学特論A～G」のなかから1科目、「総合コースA～J」のなかから2科目
- 3年次：「科学技術論」

②選択科目

- 2年次：「ドイツ語Ⅲ」、「フランス語Ⅲ」、「中国語Ⅲ」、「イタリア語Ⅲ」、「朝鮮語Ⅲ」
- 3年次：「日本国憲法」
- 1～4年次：「シーズンスポーツ」
- 2～4年次：「スポーツ」

2) 専門教育科目

①専門教育科目は、次の要件を満たし、合計80単位以上履修すること。(表1参照)

②その他に『専門教育科目の選択科目』から18単位以上履修すること。
ただし、その18単位の一部または全部は、『他学科の開放科目』

● 専門教育科目の履修要件

表 1

部 門	授業科目名等	単位数等		
専門基礎科目	① 世界と日本	2科目 4単位 以上選択	16単位以上	
	② 文化と思想	「宗教と文化」 2単位 「宗教と文化」以外 1科目 2単位 以上選択		
	③ 国際社会と環境	4科目 8単位 以上選択		
専門基幹科目	① 国際文化特論	2科目 4単位 以上選択	30単位以上	
	② 地域研究	アジア・アフリカ系列 を中心に学ぶ		アジア・アフリカ系列 8単位 以上選択 ヨーロッパ系列 あるいは 文化交流系列 4単位 以上選択
		ヨーロッパ系列 を中心に学ぶ		ヨーロッパ系列 8単位 以上選択 アジア・アフリカ系列 あるいは 文化交流系列 4単位 以上選択
		文化交流系列 を中心に学ぶ		文化交流系列 8単位 以上選択 アジア・アフリカ系列 あるいは ヨーロッパ系列 4単位 以上選択
	③ 演習	国際文化基礎演習		2単位
		国際文化演習Ⅰ		2単位
		国際文化演習Ⅱ		2単位
	④ 卒業論文	卒業論文演習Ⅰ		2単位
		卒業論文演習Ⅱ		2単位
		卒業論文		4単位
言語とコミュニケーション 科目	① 「言語と社会」または 「異文化間コミュニケーション」	1科目 2単位 以上選択	18単位以上	
	② 会話系*	6単位 以上選択		16単位
	③ その他	10単位 以上選択		以上選択

* 「言語とコミュニケーション科目」部門②の「会話系」とは、English Communication I～V、科目名に「会話」が入っている科目のこと

『一般教育科目の選択科目』
『学芸員に関する科目の中の○印の科目』
『本学と協定を締結している他大学の単位互換科目』
をもって換えることができる。

【キャップ制について】

キャップ制とは、授業の予習や復習など教室外において学習する時間を考慮し、単位の過剰登録を防ぐため、学期間・年間に科目登録できる単位の上限を設ける制度である。

1年度あたり修得できる単位数は、前期、後期それぞれ28単位、通年で48単位を超えてはならない。

なお、全学科において科目登録の上限に含めない科目があるので、詳しくは、「5 キャップ制」(P18)を参照すること。

【ⅠとⅡ(Ⅰ～Ⅴ)に区分された科目の登録・履修方法】

Ⅰ、Ⅱなどローマ数字で区分された科目の登録・履修方法は次のとおり。科目ごとに異なるので、間違えないこと。なお、ⅠとⅡ(ⅢとⅣ)を同一年度に連続して履修することが定められていない場合でも、ⅠとⅡ(ⅢとⅣ)の両方の履修を希望するのであれば、同一年度に連続して履修することが望ましい。

1. 地域研究科目(専門基幹科目)

①地域研究部門に含まれる各科目(「東アジア

Ⅰ」、「フランス・南ヨーロッパⅡ」、「文化交流 観光Ⅰ」など)は、原則としてⅠとⅡの両方を同一年度内に登録・履修する。

②地域研究科目で複数のクラス((a)と(b)など)に分けられた科目を履修する場合、ⅠとⅡは同じクラスを履修する。なお、同一科目の複数クラスを同時に履修することはできないので、注意すること。(再度履修の項も参照すること。)

③後期に開講されるⅡを登録することができるのは、前期に開講されるⅠの単位を修得済みか、未修得であっても授業担当者がⅡの登録を了承した場合に限られる。前期にⅠを登録していない、またはⅠの履修を放棄したと授業担当者が判断した場合(出席回数不足、期末試験欠席、課題レポート未提出など)には、Ⅱを履修することができないので注意すること。

④Ⅰの単位を未修得のままⅡを履修した場合、次年度(以降)に必ずⅠを登録・履修すること。

⑤留学、帰学、休学、復学などの理由で、上記①のとおり登録・履修することができない場合には、教務部委員の教員が了承した後、半期のみや、Ⅱ、Ⅰの順でも登録・履修することができる。

2. 心理学、イギリス文化史(その他の専門教育科目)
「イギリス文化史Ⅰ」と「イギリス文化史Ⅱ」、「心

理学Ⅰ」と「心理学Ⅱ」は、それぞれ段階制の科目である。下位レベル（Ⅰ）を履修済みでなければ上位レベル（Ⅱ）の登録・履修は認められない。

3. 言語とコミュニケーション科目

科目によりⅠ・Ⅱ、Ⅰ～Ⅳ、Ⅰ～Ⅴと区別されている。また、科目ごとに登録・履修に関する条件が設けられている。詳細は表2をよく見ること。

4. 国際文化演習（専門基幹科目一演習）

①演習クラスの選択希望調査が2年次後期に行われ、その結果をもとにして学期末までにクラス分けが決定される。3年次では、そのクラス分けのとおりⅠを登録・履修する。

②ⅠとⅡは同じクラスを履修する。

③前期にⅠの単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスのⅡを登録・履修し、必ず次年度（以降）に再度、同じクラスのⅠを登録・履修する。

5. 卒業論文演習（専門基幹科目一卒業論文）

①自分が履修した国際文化演習の担当教員が開

講する「卒業論文演習Ⅰ」のクラスを登録・履修することを基本とする。

②ⅠとⅡは同じクラスを履修する。

③前期にⅠの単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスのⅡを登録・履修する。なお、Ⅰの再登録については、教務部委員の教員の指示に従うこと。

6. 上記以外の諸科目

ⅠとⅡの履修方法・履修順序に制限はない。

●「言語とコミュニケーション科目」各科目の履修条件と登録について 表2

科目名	履修条件	備考	
English Communication	English Communication I	1年次必修科目	
	English Communication II	English Communication I を既に履修した者	
	English Communication III	English Communication II を既に履修した者	
	English Communication IV	English Communication III を既に履修した者	
	English Communication V	English Communication IV を既に履修した者	
Reading Comprehension	Reading Comprehension I	1年次必修科目	
	Reading Comprehension II	1年次必修科目。Reading Comprehension I を既に履修した者。	
	Reading Comprehension III	Reading Comprehension II を既に履修した者	
	Reading Comprehension IV	Reading Comprehension III を既に履修した者	
English Grammar	English Grammar I	1年次選択科目	
	English Grammar II	1年次選択科目。English Grammar I を既に履修した者。	
English Writing	English Writing I	2年次選択科目	
	English Writing II	2年次選択科目。English Writing I を既に履修した者。	
時事英語	時事英語Ⅰ	3～4年次選択科目	
	時事英語Ⅱ	3～4年次選択科目。時事英語Ⅰを既に履修した者。	
実務英語	実務英語Ⅰ(a)・(b)	3～4年次選択科目。(a)と(b)を同時に履修できない。	
	実務英語Ⅱ(a)・(b)	3～4年次選択科目。Ⅰ(a)を既に履修した者のみがⅡ(a)を、またⅠ(b)を既に履修した者のみがⅡ(b)を履修できる。Ⅱ(a)とⅡ(b)を同時に履修することはできない。	
会話	フランス語会話Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：①各言語の一般教育科目《「外国語ⅠA」または「外国語ⅠB」》かつ《「外国語ⅡA」または「外国語ⅡB」》を既に履修した者 ②履修しようとする言語の学習経験が1年以上ある者 ①か②の条件を満たしていること Ⅱ：Ⅰの単位を修得した者のみⅡを履修できる *朝鮮語会話Ⅰ・Ⅱはそれぞれ2クラス開講される。この両方のクラスを履修することはできない。再度履修可能な科目ではない。	ⅠとⅡの両方を同じ年度に登録・履修することが望ましい。
	ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱ		
	イタリア語会話Ⅰ・Ⅱ		
	中国語会話Ⅰ・Ⅱ		
	朝鮮語会話Ⅰ・Ⅱ		
中級	フランス語中級Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：①各言語の「会話Ⅰ」または「会話Ⅱ」または一般教育科目「外国語Ⅲ」を既に履修した者 ②履修しようとする言語の学習経験が2年以上ある者 ①か②の条件を満たしていること Ⅱ：Ⅰの単位を修得した者のみⅡを履修できる	
	ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ		
	イタリア語中級Ⅰ・Ⅱ		
	中国語中級Ⅰ・Ⅱ		
	朝鮮語中級Ⅰ・Ⅱ		
初級	アラビア語初級Ⅰ・Ⅱ	Ⅰの単位を修得した者のみⅡを履修できる	
	タイ語初級Ⅰ・Ⅱ		

【再度履修が可能な科目について】

専門教育科目のうち、一部の地域研究科目、国際文化特論、実務英語、個別研修は再度履修が可能な科目である。ただし、科目によって履修方法や単位の扱いが異なるので以下の点に注意すること。

1. 一部の地域研究科目（2～3年次）

複数のクラスに分けられている地域研究科目が再度履修可能科目に指定されているのは、年度（学期）が異なれば、履修済みのクラスとは別のクラス（別の担当者の授業）も履修できるようにするためである。履修したクラスの単位は、それぞれ卒業要件単位に含めることができる。なお、複数のクラスを同時に履修することはできないし、同じクラス（同じ担当者の授業）を再度履修することもできないので、注意が必要である。

2. 国際文化特論 A・B・C・D（3～4年次）

4年次に履修しようとする科目の担当者が、3年次の担当者と異なる場合のみ再度履修でき、それぞれ卒業要件単位に含めることができる。

履修方法の例

- ①：3年次 国際文化特論 A 担当者 a
4年次 国際文化特論 A 担当者 b → 再度履修可能・卒業要件単位に含めることができる
- ②：3年次 国際文化特論 A 担当者 c
4年次 国際文化特論 A 担当者 c → 再度履修不可能・卒業要件単位に含めることができない

3. 実務英語 I・II（3～4年次）

I・IIは段階制の科目であるが、それぞれの(a)クラスと(b)クラスでは授業内容が異なる。(a)(b)両方のクラスの授業が受講できるよう、再度履修可能科目に指定されている。I(a)・I(b)・II(a)・II(b)の単位はすべて卒業要件単位に含めることができる。ただし、表2に記されているように、I(a)とI(b)を同時に履修することはできないし、II(a)とII(b)も同時に履修することはできない。また、II(a)を履修できるのはI(a)の履修を終えた人だけであり、II(b)を履修できるのもI(b)の履修を終えた人だけである。

4. 個別研修

個別研修は、「語学個別研修」、「地域研究個別研修」、「資格個別研修」の3種類がある。再度履修が可能な科目であり、同じ科目名で2度以上単位の認定を受けることができる。しかし、再度履修の場合の単位は、卒業要件単位に含めることができない。

【実習科目の履修について】

1. 海外実習、語学実習、国内実習は、他科目同様にカリキュラムに含まれ、他科目同様に4月または9月に科目登録を行うが、実習の説明会は、多くの場合、実習実施の前年度に開催される。説明会に関する掲示を見落とさないよう注意すること。

2. 海外実習に参加するには、「海外実習講義」と「海外実習」の両科目を登録・履修する。
3. 語学実習に参加するには、「語学実習講義」と「語学実習」の両科目を登録・履修する。
4. 国内実習は、半期の授業と国内での実習との二部構成となっている。授業と実習の両方を履修することで「国内実習」の単位を修得できる。
5. 「海外実習講義」、「語学実習講義」、「国内実習」はキャップ制の対象科目だが、科目としての「海外実習」と「語学実習」はキャップ制対象科目ではない。
6. どの実習も、参加費の支払いを伴うが、旅行会社主催のツアーではないため、いったん登録した後に履修を放棄すると、様々な点（費用だけでない）で計画に狂いが生じ、他の学生に迷惑がかかることになる。本当に実習に参加する意志があるのか、時間的・金銭的に参加可能か等、十分に検討したうえで科目登録すること。

7. 貸与金制度

海外実習と語学実習（海外で実施される場合）については、参加希望学生を対象とした「宮城学院学生生徒海外研修費用等貸与金制度」がある。貸与金を受ける資格があるのは、参加を希望しつつも費用の点で参加が困難な学生である。申し込みは参加実習予定年度の4月に受け付けるので、告知の掲示を見落とさぬよう注意すること。なお、貸与金の総額に限りがあるため、希望しても貸与されない場合がある。

貸与金について、詳しくは学生便覧(P159)の「宮城学院学生生徒海外研修費用等の貸与に関する規程」を参照のこと。

【個別研修について】

個別研修は、「語学個別研修」、「地域研究個別研修」、「資格個別研修」の3種類がある。キャップ制対象外の科目である。

個別研修として認められた単位はすべて卒業要件単位に含めることができる。しかし、再度履修として認められた単位については、卒業要件単位に含めないものとする。本科目は履修登録の必要はないが、単位認定の手続きの際は、以下の点に注意すること。

- ①語学個別研修：**語学講座参加または留学をする前に教務部委員の教員に計画を申し出ること**。研修後は学習内容および成績を証明する書類あるいはそれにかわる修了証を教務部委員の教員に提出すること。
- ②地域研究個別研修：**事前に教務部委員の教員に計画を申し出ること**。研修後は学習内容および、成績証明書または報告書、研修修了証を教務部委員の教員に提出すること。
- ③資格個別研修：検定試験合格の認定証や級、スコアが記載されている書類の

ピーを教務部委員の教員に提出すること。

単位認定に関する書類の提出期限については掲示で知らせる。なお、単位の認定は後期終了後の成績に反映されるように行う。単位認定基準は認定基準表による。

1. 語学個別研修 <語学個別研修 A (2 単位)、語学個別研修 B (4 単位) >

国内の大学、短期大学、あるいは専門学校等で開講されている語学講座に参加した場合、海外の正規の大学に附属している語学学校等に留学した場合は、それぞれの学校で修得した語学科目を、言語の種類を問わず、本科目に振り替えることができる。ただし、単位認定にあたっては、別に定める必要最低限の学習時間を超えることを条件とするとともに、学習内容および成績を証明する書類あるいはそれにかわる修了証の提出を必要とする。なお、休学を伴う私費留学は対象とはしない。

2. 地域研究個別研修 <地域研究個別研修 A (2 単位)、地域研究個別研修 B (4 単位) >

本学科に既設の「地域研究」部門の諸科目に関連した科目に関わって、海外の正規の大学に在学留学する場合、及び国際協力 NGO センターあるいは本学科が認定した国内外のスタディ・ツアー、ワーク・キャンプ等の現地実習に参加する場合は、それぞれの大学や機関で修得した

科目及び研修を本科目に振り替えることができる。ただし、単位認定にあたっては、別に定める必要最低限の学習時間あるいは研修時間を超えることを条件とするとともに、学習内容および成績を証明する書類、あるいは活動報告書および修了証の提出を必要とする。なお、休学を伴う私費留学は対象とはしない。

3. 資格個別研修 <資格個別研修 A (2 単位)、資格個別研修 B (4 単位) >

国内外で実施されている各種検定試験において認定された資格を本科目に振り替えることができる。「資格個別研修」で認定する資格については、「資格個別研修」に関する単位認定基準を参照すること。

「資格個別研修」の単位の認定を受けようとする場合は、検定試験の「合格証明書」(級数又はスコアを含む)を教務部委員の教員に提出し、認定を受けること。「資格個別研修」の単位については、同一認定基準において、2 種類以上の検定試験が単位認定の対象となる場合には、本人の申請により、いずれか 1 種類の検定試験のみを認定する。「資格個別研修」の全科目において、試験結果の有効期間は 2 年間とし、本学入学以前に取得した科目についても単位を認定する。

「個別研修」部門の単位認定は、以下の単位認定基準に基づく。

● 「語学個別研修」「地域研究個別研修」の単位認定基準

種類	認定基準	認定科目の名称	単位
語学	30 時間以上の研修	語学個別研修 A	2
	60 時間以上の研修	語学個別研修 B	4
大学での修得科目	30 時間以上の研修	地域研究個別研修 A	2
	60 時間以上の研修	地域研究個別研修 B	4
スタディ・ツアー ワーク・キャンプ 等	30 時間以上の研修	地域研究個別研修 A	2
	60 時間以上の研修	地域研究個別研修 B	4

●「資格個別研修」に関する単位認定基準

	検定試験	認定団体	認定基準	認定科目の名称	単位
英語	TOEIC TOEFL iBT 実用英語技能検定	国際ビジネスコミュニケーション協会 国際教育交換協議会 日本英語検定協会	450点以上 45点以上 2級	「資格個別研修 A」	2
	TOEIC TOEFL iBT 実用英語技能検定	国際ビジネスコミュニケーション協会 国際教育交換協議会 日本英語検定協会	550点以上 79点以上 準1級以上	「資格個別研修 B」	4
フランス語	実用フランス語技能検定	フランス語教育振興協会	4級	「資格個別研修 A」	2
	実用フランス語技能検定	フランス語教育振興協会	3級以上	「資格個別研修 B」	4
ドイツ語	ドイツ語技能検定	ドイツ語学文学振興会	4級	「資格個別研修 A」	2
	ドイツ語技能検定	ドイツ語学文学振興会	3級以上	「資格個別研修 B」	4
中国語	中国語検定	日本中国語検定協会	2級	「資格個別研修 A」	2
	中国語検定	日本中国語検定協会	準1級以上	「資格個別研修 B」	4
朝鮮語	ハングル能力検定試験 韓国語能力試験	ハングル能力検定協会 韓国教育財団	準2級 中級(3~4級)	「資格個別研修 A」	2
	ハングル能力検定試験 韓国語能力試験	ハングル能力検定協会 韓国教育財団	2級以上 高級(5~6級)	「資格個別研修 B」	4
日本語・漢字	日本漢字能力検定	日本漢字能力検定協会	準1級	「資格個別研修 A」	2
	日本漢字能力検定 日本語教育能力検定試験	日本漢字能力検定協会 日本国際教育支援協会	1級 合格	「資格個別研修 B」	4
旅行業務	国内旅行業務取扱管理者試験	全国旅行業協会	取得	「資格個別研修 A」	2
	総合旅行業務取扱管理者試験	日本旅行業協会	取得	「資格個別研修 B」	4
通訳	通訳案内士試験	国際観光振興機構	取得	「資格個別研修 B」	4
観光英語	観光英語検定試験	全国語学ビジネス観光教育協会	2級	「資格個別研修 A」	2
	観光英語検定試験	全国語学ビジネス観光教育協会	1級	「資格個別研修 B」	4

3 取得できる免許と資格

国際文化学科の学生は、次の教育職員免許状と資格を取得することができる。取得方法については、「資格・免許」(P116~)を参照すること。

- 教育職員免許状：中学校教諭一種免許状（社会）
 中学校教諭一種免許状（英語）
 高等学校教諭一種免許状（公民）
 高等学校教諭一種免許状（英語）

資格：学芸員

4 教育課程表の記号について

・「卒業要件」…卒業に関わる授業科目

- 必修 …………… ◎
 選択（卒業要件単位） …………… △
 自由（卒業要件単位には含まれない） …………… △

・「免許・資格」…免許・資格取得に関わる授業科目

- 教職（共通）必修 …………… 教
 教職（共通）選択 …………… 教
 教職（中一種免・高一種免を両方取得希望者）必修 …… ⊗
 教職（中一種免〔社会〕）必修（専門教育科目・教職に関する科目）… 社
 教職（高一種免〔公民〕）必修（専門教育科目・教職に関する科目）… 公
 教職（中一種免〔英語〕）必修（専門教育科目・教職に関する科目）… 中
 教職（高一種免〔英語〕）必修（専門教育科目・教職に関する科目）… 高
 教職（中一種免〔社会〕）選択必修（専門教育科目・教職に関する科目）… 社
 教職（高一種免〔公民〕）選択必修（専門教育科目・教職に関する科目）… 公
 教職（中一種免〔英語〕）選択必修（専門教育科目・教職に関する科目）… 中
 教職（高一種免〔英語〕）選択必修（専門教育科目・教職に関する科目）… 高
 教職（中一種免〔社会〕）選択（専門教育科目・教職に関する科目）… 社
 教職（高一種免〔公民〕）選択（専門教育科目・教職に関する科目）… 公
 教職（中一種免〔英語〕）選択（専門教育科目・教職に関する科目）… 中
 教職（高一種免〔英語〕）選択（専門教育科目・教職に関する科目）… 高
 学芸員必修 …………… 学
 学芸員選択 …………… 学

5 教育課程表

国際文化学科教育課程表

部門	必修・選択・自由 卒業要件 免許・資格		授業科目	単位	開設年次および単位				再度履修	備考
	1年次	2年次			3年次	4年次				
一般科目	人文学系科目	◎	キリスト教	2	2					
		◎	基礎演習	2	2					
		◎	日本語演習	2	2					
		△(教)	日本国憲法	2			2			
	自然系科目	◎	自然科学入門	2	2					
		△	自然科学特論A	2		2			可	1科目2単位以上選択
		△	自然科学特論B	2		2			可	
		△	自然科学特論C	2		2			可	
		△	自然科学特論D	2		2			可	
		△	自然科学特論E	2		2			可	
		△	自然科学特論F	2		2			可	
	△	自然科学特論G	2		2			可		
	総合科目	◎	科学技術論	2			2			
		△	総合コースA	4		4			可	2科目8単位以上選択
		△	総合コースB	4		4			可	
		△	総合コースC	4		4			可	
		△	総合コースD	4		4			可	
		△	総合コースE	4		4			可	
△		総合コースF	4		4			可		
△		総合コースG	4		4			可		
△		総合コースH	4		4			可		
△		総合コースI	4		4			可		
△	総合コースJ	4		4			可			
外国語科目	△	ドイツ語I A	1	1					同一外国語を 4科目4単位以上選択	
	△	ドイツ語I B	1	1						
	△	ドイツ語II A	1	1						
	△	ドイツ語II B	1	1						
	△	フランス語I A	1	1						
	△	フランス語I B	1	1						
	△	フランス語II A	1	1						
	△	フランス語II B	1	1						
	△	中国語I A	1	1						
	△	中国語I B	1	1						
	△	中国語II A	1	1						
	△	中国語II B	1	1						
	△	イタリア語I A	1	1						
	△	イタリア語I B	1	1						
	△	イタリア語II A	1	1						
	△	イタリア語II B	1	1						
	△	朝鮮語I A	1	1						
	△	朝鮮語I B	1	1						
	△	朝鮮語II A	1	1						
	△	朝鮮語II B	1	1						
	△	ドイツ語III	1		1			可		
	△	フランス語III	1		1			可		
	△	中国語III	1		1			可		
	△	イタリア語III	1		1			可		
△	朝鮮語III	1		1			可			
体育科目	◎(教)	運動スポーツ論	2	2						
	△(教)	シーズンスポーツ	1			1			可	
	△(教)	スポーツ	1			1			可	
専門科目	世界と日本文化と思想	△	現代の世界	2	2					2科目4単位以上選択
		△(社学)	日本の歴史	2	2					
		△(社学)	アジアの歴史	2	2					
		△(社学)	ヨーロッパの歴史	2	2					
	国際社会と環境	◎(社公)	宗教と文化	2			2			4科目8単位以上選択
		△(社公)	アジアの思想	2	2					
		△(社公)	ヨーロッパの思想	2	2					
		△(学)	日本文化論	2	2					
		△(社公)	国際関係論	2	2					
		△(学)	国際経済論	2	2					
		△(学)	環境社会学論	2	2					
		△(中高学)	文化人類学	2	2					
		△(中高学)	比較文化論	2		2				
		△	ジェンダー論	2	2					
△	観光文化論	2	2							

国際文化学科

国際文化学科

部門	必修・選択・自由		授 業 科 目	単 位	開設年次および単位				再 度 履 修	備 考	
	卒業要件	免許・資格			1年次	2年次	3年次	4年次			
専 門 基 礎 研 究 目 的 科 目	国際文化特論	△ 公	国際文化特論A (開発と国際協力)	2			2		可	2科目4単位以上選択	
		△	国際文化特論B (女性と人権)	2			2		可		
		△ 中高公	国際文化特論C (多文化社会と共生)	2			2		可		
		△	国際文化特論D (地域の統合と分離)	2			2		可		
	地域系	アジア・アフリカ系列	△ 社公	東 ア ジ ア I	2		2				「アジア・アフリカ系列8単位、ヨーロッパあるいは文化交流系列4単位」以上 または 「ヨーロッパ系列8単位、アジア・アフリカあるいは文化交流系列4単位」以上 または 「文化交流系列8単位、アジア・アフリカあるいはヨーロッパ系列4単位」以上選択
			△ 社公	東 ア ジ ア II	2		2				
			△ 社	東 南 ア ジ ア I	2		2				
			△ 社	東 南 ア ジ ア II	2		2				
			△ 社	南 ア ジ ア I	2		2				
			△ 社	南 ア ジ ア II	2		2				
		ヨーロッパ系	△ 公	西 ア ジ ア ・ ア フ リ カ I	2		2				
			△ 公	西 ア ジ ア ・ ア フ リ カ II	2		2				
			△ 社	イ ギ リ ス ・ 北 ヨ ー ロ ッ パ I	2		2				
			△ 社	イ ギ リ ス ・ 北 ヨ ー ロ ッ パ II	2		2				
			△ 社公	フ ラ ン ス ・ 南 ヨ ー ロ ッ パ I	2		2				
			△ 社公	フ ラ ン ス ・ 南 ヨ ー ロ ッ パ II	2		2				
	文化交流系	△ 社公	ド イ ツ ・ 東 ヨ ー ロ ッ パ I	2		2					
		△ 社公	ド イ ツ ・ 東 ヨ ー ロ ッ パ II	2		2					
		△ 社中高	文 化 と 交 流 日 本 I	2		2					
		△ 社中高	文 化 と 交 流 日 本 II	2		2					
		△	文 化 と 交 流 ア ジ ア ・ ヨ ー ロ ッ パ I	2		2					
		△	文 化 と 交 流 ア ジ ア ・ ヨ ー ロ ッ パ II	2		2					
	演習	◎	国 際 文 化 基 礎 演 習	2	2						
		◎	国 際 文 化 演 習 I	2		2					
◎		国 際 文 化 演 習 II	2		2						
卒業論文	◎	卒 業 論 文 演 習 I	2			2					
	◎	卒 業 論 文 演 習 II	2			2					
	◎	卒 業 論 文	4			4					
言 語 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 科 目	△ 全全	言 語 と 社 会	2		2				1科目2単位以上選択		
	△ 全全	異文化間コミュニケーション	2		2						
	◎ 中高中高	English Communication I	2	2					会話系6単位以上、 その他10単位以上、 合計16単位以上選択		
	△ 中高	English Communication II	2	2							
	△ 中高	English Communication III	2		2						
	△ 中高	English Communication IV	2		2						
	△ 中高	English Communication V	2			2					
	◎ 中高	Reading Comprehension I	2	2							
	◎ 中高	Reading Comprehension II	2	2							
	△ 中高	Reading Comprehension III	2		2						
	△ 中高	Reading Comprehension IV	2		2						
	△ 中高	English Grammar I	2	2							
	△ 中高	English Grammar II	2	2							
	△ 中高	English Writing I	2		2						
	△ 中高	English Writing II	2		2						
	△ 中高	時 事 英 語 I	2			2					
	△ 中高	時 事 英 語 II	2			2					
	△	実 務 英 語 I	2			2		可			
	△	実 務 英 語 II	2			2		可			
	△	フ ラ ン ス 語 会 話 I	1		1						
	△	フ ラ ン ス 語 会 話 II	1		1						
	△	フ ラ ン ス 語 中 級 I	2			2					
	△	フ ラ ン ス 語 中 級 II	2			2					
	△	ド イ ツ 語 会 話 I	1		1						
△	ド イ ツ 語 会 話 II	1		1							
△	ド イ ツ 語 中 級 I	2			2						

部門	必修・選択・自由		授業科目	単位	開設年次および単位				再度履修	備考	
	卒業要件	免許・資格			1年次	2年次	3年次	4年次			
専門	言語とコミュニケーション科目	△		ドイツ語中級Ⅱ	2			2		会話系6単位以上、 その他10単位以上、 合計16単位以上選択	
		△		イタリア語会話Ⅰ	1		1				
		△		イタリア語会話Ⅱ	1		1				
		△		イタリア語中級Ⅰ	2			2			
		△		イタリア語中級Ⅱ	2			2			
		△		中国語会話Ⅰ	1		1				
		△		中国語会話Ⅱ	1		1				
		△		中国語中級Ⅰ	2			2			
		△		中国語中級Ⅱ	2			2			
		△		朝鮮語会話Ⅰ	1		1				
		△		朝鮮語会話Ⅱ	1		1				
		△		朝鮮語中級Ⅰ	2			2			
		△		朝鮮語中級Ⅱ	2			2			
		△		アラビア語初級Ⅰ	2		2				
		△		アラビア語初級Ⅱ	2		2				
		△		フィリピン語初級	2		2				
		△		タイ語初級Ⅰ	2		2				
		△		タイ語初級Ⅱ	2		2				
		△		ヒンディー語初級	2		2				
		△		スワヒリ語初級	2		2				
専門	観光科目	△		観光英語	2			2			
		△		観光マネジメント	2			2			
		△	社	人文地理学Ⅰ	2			2			
		△	社	人文地理学Ⅱ	2			2			
	個別研修	△		語学個別研修A	2			2		可	
		△		語学個別研修B	4			4		可	
		△		地域研究個別研修A	2			2		可	
		△		地域研究個別研修B	4			4		可	
		△		資格個別研修A	2			2		可	
		△		資格個別研修B	4			4		可	
	科目	実習科目	△	甲高	海外実習講義	2		2			
			△	甲高	海外実習	4		4			
			△	甲高	語学実習講義	2		2			
			△	甲高	語学実習	4		4			
			△		国内実習	2		2			
科目	その他の専門科目	△	社公	法学	2			2			
		△	社公	政治社会論Ⅰ	2			2			
		△	社公	政治社会論Ⅱ	2			2			
		△	社公	経済学	2			2			
		△	甲高社公	情報科学	2	2					
		△	社公	社会学概論	2	2					
		△	社	自然地理学	2			2			
		△	社	地誌学	2			2			
		△	社公	哲学概論	2		2				
		△	公	心理学Ⅰ	2		2				
		△	公	心理学Ⅱ	2		2				
		△	甲高	英米文学史	2			2			
		△	甲高	英米小説の世界1	2		2			英文学科開設	
		△	甲高	英米小説の世界2	2		2			英文学科開設	
		△	甲高	英米演劇の世界1	2		2			英文学科開設	
		△	甲高	英米演劇の世界2	2		2			英文学科開設	
		△	甲高	イギリスの生活と文化1	2	2				英文学科開設	
		△	甲高	イギリスの生活と文化2	2	2				英文学科開設	
△	甲高	イギリス文化史Ⅰ	2		2			英文学科開設			
△	甲高	イギリス文化史Ⅱ	2		2			英文学科開設			

国際文化学科

部門	必修・選択・自由		授 業 科 目	単 位	開設年次および単位				再度履修	備 考
	卒業要件	免許・資格			1年次	2年次	3年次	4年次		
教職に関する科目	△	教	教 育 原 理	2	2					
	△	教	教 育 制 度 論	2	2					
	△	教	教 職 概 論	2	2					
	△	教	教 育 心 理 学	2		2				
	△	教	教 育 方 法 論	2		2				
	△	中高社公	道 徳 教 育 の 理 論 と 方 法	2		2				
	△	教	特 別 活 動 の 理 論 と 方 法	2		2				
	△	教	生 徒 指 導 A (進路指導を含む)	2		2				
	△	教	教 育 相 談	2			2			
	△	社	社 会 科 教 育 法 I (地理歴史分野)	2		2				
	△	社公	社 会 科 教 育 法 II (公民分野)	2		2				
	△	社公	公 民 科 教 育 法	2			2			
	△	中高	英 語 科 教 育 法 I	2		2				
	△	中高	英 語 科 教 育 法 II	2		2				
	△	中高	英 語 科 教 育 法 III	2			2			
	△	中高	英 語 科 教 育 法 IV	2			2			
	△	教	教 職 実 践 演 習 (中・高)	2				2		
△	中社高	教 育 実 習 A (事前事後指導を含む)	5				5			
△	高公	教 育 実 習 B (事前事後指導を含む)	3				3			
学芸員に関する科目	△	学	生 涯 学 習 概 論	2			2			
	△	学	博 物 館 概 論	2	2					
	△	学	博 物 館 資 料 論	2		2				
	△	学	博 物 館 経 営 論	2		2				
	△	学	博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論	2	2					
	△	学	博 物 館 実 習 I	1			1			
	△	学	博 物 館 実 習 II	2			2			
	△	学	博 物 館 教 育 論	2	2					
	△	学	博 物 館 資 料 保 存 論	2			2			
	△	学	博 物 館 展 示 論	2		2				
	△	学	文 化 史	4			4		} 2科目8単位以上選択	
	△	学	民 俗 学	4			4			
△	学	美 術 史	4			4				
△	学	考 古 学	4			4				
計			一 般 教 育 科 目	95						
			専 門 教 育 科 目	254						
			教 職 に 関 す る 科 目	42						
			学 芸 員 に 関 す る 科 目	35						
			合 計	426						